

平成30年度の年間の活動

1. 概要

1) 空き店舗の活用事例を1つ作りました

3月21日の「本町まちづくりを考える会」を契機として、廃業してしばらくそのままだった「ときわ印刷」という空き店舗の改修がすすめられた。リノベーション企画を3回行い、また江津工業高校の授業で扱ってもらいながら、7月1日にはイベントで使えるスペースにまでなった。

2) 様々な人や団体と協力して、江津本町での事業をすすめました。

イベント「ふらり」や「てごねっと中高生サークル」では、江津本町を舞台に、工夫された事業を展開し、協議会としてそれらが実行できるように支援・助言をした。また、協議会の総会では石見銀山資料館館長の仲野義文氏にお越しいただき、本町の歴史について、周辺での出来事を交えながら、住民にご教授いただいた。

3) 「長州藩士慰霊祭」を実施

明治維新150周年ということから、新たな時代を目指し志半ばに亡くなった長州藩士のお墓がある地域として、慰霊祭を行った。地域のお寺に相談して、宗派の異なる3ヶ寺に並んでご臨席いただいた。また多くの住民も参列した。また当日までにお墓周辺やそこまでの道のりの草刈りを行なった。

2. 出来事

3月21日 「本町まちづくりを考える会」を開催

三江線の鉄道資産活用を考える一講師 森田一平

～宇都井、口羽の事例を学ぶ～

空き家、空き店舗のリノベーション事例紹介

講師 平下 茂親

空き家の現地調査（高原邸）、リノベーション検証

空き店舗（旧きらく食堂・ときわ印刷）を使ったワークショップ

終了後、BBQを実施

参加 本町まちづくり推進協 5名 講師 2名

ポリテクカレッジ島根生 9名 江津工業高校生 7名

一般から参加 6名 地元の関係者 5名 計 34名

5月2日 江津中学校1年生ふるさと学習『ふるさと探訪』

5月19日 空き店舗（旧ときわ印刷）のリノベーションと交流会

- ・江津工業生とポリテクカレッジ生による作業（天井板撤去等）
- ・交流会～山辺会館前で焼きそば、たこ焼き、川海老パーティー
参加 江津工業生 3名 ポリテクカレッジ生 10名
まちづくり推進協、地元から4名 計20名
- 6月16日 本町まちづくり推進協総会と講演会
講師 石見銀山資料館館長 仲野 義文 氏
演題 「江の川と天領について」 参加者 35名
- 6月23日 空き店舗（旧ときわ印刷）リノベーション実施と交流会
・江津工業生とポリテクカレッジ生による作業 参加 20名
（7/1 ふらり開催時の利活用を目指す）
・交流会～山辺会館前 BBQ
- 7月1日 本町イベント「ふらり」を開催 テーマ（ふらり縁日）
市内の41企業・団体が参加（出店や体験企画）
空き家を活用した臨時のカフェ、焼き菓子やベトナム料理、
アクセサリ制作やけん玉体験コーナー、
的あてゲーム、金魚すくいなど
- 7月2日 「第13回住まいのまちなみコンクール」授賞式
メルパルク東京（出席 黒川聰、吉田悠生）
- 8月27日 役員会の開催（受賞報告）
- 9月1日から1月31日 江津工業高等学校 地域系部活動
地域課題解決型部活動
—古民家等の調査研究、古民家調査、修繕調査等
- 9月8日 平成30年度 高文連石見地方絵画コンクール
～赤瓦の住宅・街なみ絵画コンクール～ 80名
- 9月13日 江津市長への受賞報告と今後の展開について
- 9月29日 （公益）しまね文化振興財団からの要請による本町案内
- 10月5日 まちづくり役員会 明治維新150周年記念事業
「長州藩士慰霊祭」打合せ～お寺との交渉、住民への案内等
- 10月10日 島根県職員、山陰中央新報社記者等 本町案内
- 10月29～11月2日 会場準備（展示品等）、「だんと山清掃作業」
- 11月3日 長州藩士慰霊祭 展示コーナーの開設
4日 長州藩士慰霊祭式典、希望者による墓参～別添PW
- 11月9日 益田まちづくり推進会から2名来訪
江津本町の幕末に係る情報交換、だんと山へ墓参
- 11月17日 「てごねっと中高生サークル」イベント
クイズやパズルを解きながら町歩きを楽しむ 約100名
- 12月18日 まちづくり役員会

長州藩士慰霊祭の報告、今後の活動について等

- 1月16日 「ふらり」第1回準備委員会開催
日時・テーマ・行程表などを協議
- 2月2日 江津工業高校生とポリテクカレッジ合同での「未来人材ものづくり研究発表会」
に出席～空き店舗の再生事業（江津本町地区）
◎2018「建築甲子園」で準優勝を受賞
- 2月12日 まちづくり役員会
- 2月13日 「ふらり」第2回準備委員会
- 2月18日 平成30年度「夢街道ルネッサンス」意見交換会で活動報告
主催 国土交通省浜田河川国道事務所

受賞を契機に新たに取り組んでいること

1. 空き家・空き店舗の利活用

空き家・空き店舗の活用を具体的に進めていった。地元の高校や職業訓練校の教員、地元の事業者や若者を集めたグループを主体に、しばらく空き店舗だった「ときわ印刷」のリノベーションを行った。母屋は、廃業・転居の際に片付けがされておらず、印刷機など多くのものがそのままの状態だった。そこで江津工業高校生たちやポリテクカレッジしまねの学生らと一緒に、片付け・掃除を行った。その後、彼らとワークショップとして、壁などの張替えを行い、リノベーションを施した。それにより、7月1日の地域イベント「ふらり」では、イベント会場として使用することができた。それ以後には、地域課題解決型部活動として、江津工業高校の建築家の教材としても継続して使用されている。また、この取組が高く評価されて、2018「建築甲子園」で準優勝を受賞した。

調査検討費の使途

- 空き家、空き店舗の関係（空き店舗の借用費、空き店舗改善費等）
- 本町イベント「ふらり」経費
- 本町地区歴史的建造物を活かしたまちづくり推進協議会総会（講師料：石見银山資料館 仲野義文館長）
- 歴史や史実の掘り起こし活動（長州藩士慰霊祭関係）
- 活動報告と広報費
- 活動旅費
- 事務費（写真・コピー代・保険料）

近い将来取り組まなければならない課題

1. 本町地区の空き家状態の把握と、定期的にチェックする体制づくり

1つの手つかずの空き店舗について、片付けおよび改修まですすめることができた。一方で、地区の空き家の状況について、情報が一元的に集まっていないのが実情である。また、1度調べても、その情報は次第に古くなって正確ではなくなることが指摘された。そこで、市の職員や建築の専門家、民生児童委員などの力を借りながら、空き家の把握に勤めるとともに、今後も定期的に情報の更新に勤める枠組みの構築を目指す。

実態把握をもとに、2018年度に取り組んだ空き家活用までの事例を強みにして、例えば旅行客に使ってもらえるような空き家を増やすことなどを目指す。

2. 住民ニーズを満たすまちづくりへの取り組み

いままで私たちは観光客向け、PR向けの活動が多かった。お一人暮らし・高齢者世帯向けなどの実態を調査して居住者の安心・安全・快適な社会への活動につなげる。

3. 継続的に関わりをもつ仕組み作り

30年度は協力してくださる教員の方を中心に「江津工業高校生」や「ポリテクカレッジ生」と連続した企画を実施することができた。こういった連携が年度を超えて、教員の異動を伴っても、継続できるような仕組みづくりに着手する。

4. 歴史的経緯を踏まえた他地域との連携

検証の不十分なことが沢山ある。それらをすすめながら、浜田市・益田市・津和野町・山口県萩市などと連携をすすめていき交流することで、広域での周遊や、知名度アップの発展に結びつける。

5. 案内板の確保

外から来た方向への案内が不十分である。それらを拡充していく。